

## 第191回 「元気に百歳」クラブ俳句サロン「道草」開催

7月3日以来、90日ぶりになりますでしょうか。久々に「新橋ばる一ん」での句会が開催できました。仲間の皆さんと目を合わせるのが少し面映ゆく、どこか緊張感もありましたが、句会が始まりますと、一堂に会して俳句の醍醐味に浸る時間は、やはり良いものだなあと、まるで故郷に帰ったような気がしておりました。

本日、久しぶりに帰省をなさった皆さんは、芦川創風さん、井上蒼樹さん、太田一光さん、奥田和感さん、金田月草さん、君塚明峰さん、高瀬荻女さん、辻柴楽さん、中島憧岳さん、原晶如さん、本間傘吉さん、芦尾白然の総勢12名。投句という嬉しい便りを下さったのは、板倉歌多音さん、木村栄女さん、住田幸佳さん、船戸清助さん、森田多佳さんの5名の方々です。

住田先生は冒頭に、コロナウイルス禍という重荷を背負わされたような時期には、こうして仲間が集まることで得られる解放感の良いものだと呼び称賛された後、「今日は切れの良い席題です」と仰って、席題1. に「露」、席題2. に「栗」、自由題句は「秋」という席題が提示されました。早速、プレイボールです。しばし静かな時間が経過した後、皆さんが詠み、選句をして、天賞並びに最多得票賞に輝いた句は、下述の通りです。

### 席題1. 「露」

- |                |    |    |
|----------------|----|----|
| ◎『白露や枢の君のいと軽く』 | 荻女 | 天1 |
| ◎『紅色の花を重たく萩の露』 | 晶如 | ☆5 |

### 席題2. 「栗」

- |                    |    |       |
|--------------------|----|-------|
| ◎『栗名月祖母の流儀のへそ団子』   | 荻女 | 天1 ☆4 |
| ◎『酒のあとは栗飯のある誕生日』   | 白然 | 天1    |
| ◎『丹波行土産の栗の艶々と』     | 一光 | ☆4    |
| ◎『刃を立ててむくのも惜しや栗の艶』 | 晶如 | ☆4    |

### 当季雑詠の自由題 (=秋=)

- |                    |     |       |
|--------------------|-----|-------|
| ◎『新蕎麦に戸隠の風光りおり』    | 憧岳  | 天2 ☆7 |
| ◎『花野にはやさしくあれと風を見る』 | 幸佳  | 天2    |
| ◎『数多度蘇り咲く曼珠沙華』     | 月草  | 天2    |
| ◎『静けさも葉ずれの音も秋の声』   | 明峰  | 天1    |
| ◎『久々の秋晴れ天に背伸びをす』   | 歌多音 | 天1    |
| ◎『道すがらおしろい花の種を採る』  | 晶如  | 天1    |
| ◎『コロナ禍に並べて等しく秋来る』  | 蒼樹  | 天1    |

(道人の一句)

どの草も露を背負ひて光りをり 住田道人

席題1. では、荻女さんの句「白露や枢の君のいと軽く」が、天賞一つを獲得しました。選者の「白露のはかなさと亡き人の枢の軽さが、さらに深い悲しさを誘う」との評がありましたが、まさに秋の寂しさが溢れていますね。席題1. には、このほかには天賞句はなく、最多得票賞(☆印)は、晶如さんの句「紅色の花を重たく萩の露」が、獲得されました。作者は紅色の萩の小さい花々に付く、露の重たさを感じ、選者はそれに共感をしたのだと思います。

席題2. でも、荻女さんの句「栗名月祖母の流儀のへそ団子」が、天賞一つと最多得票

賞（☆印）を獲得しました。句会当日の10月1日は、ちょうど陰暦の十五夜であり、月見団子を祀る夜でしたが、歳時記によりますと、栗名月は陰暦9月13日に、栗を月に祀る習わしのある夜だとのこと。ただ地方によって習わしは異なるようです。作者のお祖母さんが栗名月に作られる、お祖母さん流儀のへそ団子を、作者は懐かしく思い出されたのだと思います。選者はお月見にへそ団子という取り合わせに、驚かれての一票だと評にありました。白然の句「酒のあとは栗飯のある誕生日」も、天賞一つを戴きました。83歳の誕生日を迎えました。戴きものの栗飯が嬉しかったです。席題2.にはこのほかに、最多得票賞（☆印）句が二句あり、ひとつは一光さんの句「丹波行土産の栗の艶々と」と、もう一つは、晶如さんの句「刃を立ててむくのも惜しや栗の艶」です。いずれも「栗の艶」を賛美した句ですが、一光さんは、お土産に貰った丹波名産栗の艶の見事さを詠まれ、晶如さんは、栗を剥こうとして、その見事さに刃が立てられなかった瞬間を詠まれています。選者は、お二方の称えた栗の艶に、思いを寄せられたのでしょうか。

自由題では、憧岳さんの句「新蕎麦に戸隠の風光りおり」が、天賞二つと最多得票賞（☆印）を獲得されました。戸隠の新蕎麦の新鮮さと、戸隠は吹く風までも光っているという戸隠新蕎麦への挨拶句であると思われる。さぞかし美味であられたでしょう。次に幸佳さんの句「花野にはやさしくあれと風を見る」が、天賞二つを獲得しました。この句は秋の花野の持つ寂寥感への愛おしさを、「優しくあれ」と、見ても見えない風に願っている句です。印象的な句です。次に月草さんの句「数多度蘇り咲く曼珠沙華」が、天賞二つを獲得しました。曼珠沙華は「葉見ず花見ず」と言われます。花が咲いているときには葉は出ず、葉が出ているときに花は見えません。しかし前年咲いた同じ場所に、必ず茎が伸びてきて花が咲きます。まさに「蘇る如くに」ですね。選者は「花の持つ生命力を感じた」とありました。

次に明峰さんの句「静けさも葉ずれの音も秋の声」が、天賞一つを獲得しました。この句は古今和歌集の藤原敏行の短歌「秋来ぬと目には清かに見えねども風の音にぞ驚かれぬる」が思い起こされる句です。季語通りまさに「秋の声」ですね。次に歌多音さんの句「久々の秋晴れ天に背伸びをす」が、天賞一つを獲得しました。今年は天候不順とコロナ禍の重圧に押し付けられた日々が続きました。久々の秋晴れの日、本当に背伸びの爽快感を切望しておりました。次に晶如さんの句「道すがらおしろい花の種を採る」が、天賞一つを獲得しました。散歩の道すがら、ひょいとおしろい花の種を採る行為、選者のコメントに「園芸好きの日常の一コマが、さりげなく切り取られている」とあります。その通りでしょう。本日の晶如さんは、三句、全句とも賞を獲得されました。お見事です。もう一句、蒼樹さんの句「コロナ禍に並べて等しく秋来る」が、天賞一つを獲得しました。コロナ禍という世情、そんな時でも「秋来る」という普遍、秋は誰にでも訪れます。この重圧のとき、選者は作者の思いに大きく頷いて「イエス」と、自らの一票を投じたと思われる。

久しぶりの「新橋ばるーん」での「道草」句会、充実した時間を堪能することが出来ました。有難うございます。また、11月も「新橋ばるーん」での句会開催を、楽しみに待つことにします。毎日の「嗽の励行」、「手洗いの励行」を忘れず、「マスクの励行」を怠ることなく心がけ、11月6日には、元気で新橋に向かうことにしましょう。

白然（記）